

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200150		
法人名	株式会社たんぼぼ介護サポートセンター		
事業所名	グループホームたんぼぼの家		
所在地	千葉県松戸市六高台7-9		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成23年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着のサービスを活かし地域の盆踊りや文化祭等にも参加し、地域の住民と交流を共生が出来る様努力しています。1ユニット9名の事業所ですので、出来る限り外気浴、買い物等に出かけ、心身の機能を養うよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

① 当ホームは複合施設で、グループホーム、デイサービス、訪問介護、居宅介護支援をひとつの建物の中で行っており、相乗効果を上げています。
 ② 利用者が同じ町内会から来ており、家族や友達の面会等や外出時に地域住民との関わりが多くあり、地域に溶け込んでいると思われまます。
 ③ ホームから少し離れた場所に無料サロンを開設して地域住民に開放しています。ホームの利用者も外出時に立ち寄り、地域の高齢者や若者と無料のコーヒー、お茶を飲みながら折り紙や世代を超えた会話を楽しんでいます。このことは地域発行誌2誌に取り上げられて地域貢献として高い評価を受けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の下で、一人ひとりの安心と尊厳のある生活ができる様支援しています。	事業所の理念を「地域の中で共生しながら可能な限り自立した生活が出来る支援」としています。月1～2回の職員会議で業務と理念についての話し合いをしています。今年度は職員の異動があり、都度理念について話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の催事にも参加し、盆踊り、さくら祭り、文化祭等にて交流しております。	利用者の中にアニメや油絵の作品制作者が数名おり、民生委員や町会長から地域文化祭への出品依頼など地域行事への参加依頼を盛んに受けています。地域の清掃活動にも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「グループホームたんぼぼの家」通信を2ヶ月に1度発行し、町会長さんにもお渡しし、玄関前のインフォメーションにも掲示しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町会長、副会長、民生委員、地域包括所長、家族代表、入所者代表で開催され、行事等や苦情の報告を行い、意見を伺いサービスの向上に生かしています。	運営推進会議は通常の出席者の他に本年度から市委託の介護相談員が加わって2カ月に1回行われています。議題はヒヤリハット報告や苦情、行事連絡と外部評価報告も行われています。会議内容は通信日より「たんぼぼ通信」で家族にも報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスに連絡を取り、協力関係を築いております。	利用者に生活保護者が3名いるので市担当者が2カ月に1回来所して生活状況を確認し事業所と打合せを行っています。市委託の介護相談員が月1回来所して利用者の意見や苦情相談を聞き事業所に報告しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はありません。	研修会で職員に徹底しています。カギのかけないケアとして2階のホームから1階への扉はカギをかけていないので、利用者は1階の他事業所利用者のところに自由に遊びに行っています。玄関も日中はカギかけていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について研修に参加し、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学び、現在2名の方が活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームへの意見は推進会議でも伺い、それらを運営に反映できる様話し合いの場を設けています。	家族会は設けていませんが、運営推進会議の出席者の家族代表2名の内1名が毎日、他の1名が毎週、面会に来ていて意見交換をしています。その他の家族は面会時やケア会議の時に意見を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議・センター会議・グループホーム会議等で意見や提案の機会を設け反映しています。	ホーム内の職員会議を月2回、複合施設の全職員会議を2カ月に1回、各事業所管理者会議を月1回行っています。今年度は職員異動があったので個別面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を受け入れ、レク等においても自分の趣味を生かし、やりがいのある職場の環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に一度の社内研修や外部の研修にも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市グループホーム協会の勉強会に出席、サービスの質の向上に取り組みました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、本人や家族の方にも尋ねながら、本人が安心して生活できる様計画しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方には不安な事、要望等を伺い、良き関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今何を必要としているか見極め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自立支援に向け、出来る事は共に行う様にしています。(洗濯物たたみ、掃除、タンスの整理等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等に於いて、まず家族との楽しい一時を過ごして頂くため、お茶を出しゆっくりと居室で過ごして頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室やホール又は外出されるか尋ねて、ゆっくりして頂く様伝える。	同じ建物の1階にあるデイサービスに通っていた人がグループホームに入所しているので、今も多くの仲間との交流があり、外部の様子がよく分かっています。また、自宅に帰りたい人の付添もしていて、隔離された感じは少しもありません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等で利用者同士が密にし、良き関係で生活できる様支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様より相談があれば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個々の思いは日々の会話の中で把握し、グループホームの会議やカンファレンス等で検討しています。	日々共に暮らす中で利用者の思いを汲みとっていく場合もありますが、本人から直接明確な意向を受け取っています。それほど何でも言える雰囲気があります。また、家族からも誕生日のやり方について意見を聞いたりしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員による居室担当制の中で、担当者はケースの総てを把握する様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日どの様に過ごされたかは、日々のケース記録に記されており、それらがカンファレンス会議に生かされています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員で話し合い、介護計画を作成しております。	食事の飲み込み方、排せつ状態の変化、歩行状態他日常のいろいろな状態を記録していて、計画作成に役立てています。利用者、家族、職員で話し合い介護計画を立てています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別記録に残しており、職員間で情報を共有し介護計画に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に対応して柔軟な支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くには公園が2か所、お寺、図書館等もあり、本人の希望に応じ楽しんで生活できる様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月2回の往診、訪問歯科等、家族等が希望された時は一緒に立会い、適切な医療を受けられる様になっています。	ホームでは、3か所の医療機関と契約しています。月2回往診してくれる医師は、緊急対応もよく安心です。歯科医の訪問が随時あり、入所前からのかかりつけ医に通っている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の異常に気付いた時は、看護師に相談、指示を貰う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、病院関係者と情報交換をし、治療状況や退院へ向けての受入れ等話し合います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族の方と事前指定書を交わし、それらに基づいて関係者と支援していきます。	看取りの体制は出来ています。入所時に家族と事前指定書を取り交わしています。現時点では看取った利用者はいませんが、研修はしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、急変や事故発生時に備え、マニュアル等で研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を全職員が身につけ、緊急連絡網もすぐ確認出来るところにあります。	年2回夜間避難訓練を含む消防署による消防訓練を行い、消火器取り扱い訓練も行っています。自動通報装置とスプリンクラーは設備されています。非常用備蓄は9名分防災グッズと非常食を用意しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務マニュアルにも明記され、センター会議等でも研修しております。	言葉遣いや礼儀等の接遇研修をし、共通理解を図っています。個別計画書に合わせて介護しており、排泄時、入浴時のプライバシーに気を配り、誇りや人格を傷付けないように心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を受け入れ、自己決定できる様促しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、洋服の決定、整髪の希望、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の口腔体操、リハビリ体操を日々行い、メニューを紹介して頂く様にしています。鍋料理等利用者の希望を取り入れ、準備、後片付け等一緒に行います。	食材は業者に発注しており、献立もカロリー計算も業者任せになってはいますが、良い業者を選択していると思われます。調理専門の人がいておいしい食事が提供されています。食前に嚥下体操をし、食後は可能な人が下膳をやっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表、水分チェック表があり、一日にどれだけ確保できたか、一目で解る様になっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全利用者が口腔ケアをしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを生かし、トイレ誘導、声かけにて排泄しています。	職員は利用者一人一人の排泄パターンを理解していて、その人に合ったやり方で支援、介助しています。現在昼間はおむつを外せる人が2名いて喜ばれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい方には水分量も確認します。ヤクルト、ヨーグルト等も飲んで頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、曜日や時間帯を決めており、入浴される順番も平等になる様工夫しています。	入浴を楽しむために、ゆずや菖蒲などの季節の香りを入れたり、入浴剤を入れたりしています。できるだけ同性介助の入浴方法を取るようにしています。入浴日を一応決めてはいますが、利用者本人の希望を優先しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はほとんどの方が1時間ほど休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師の指示の下服用しております。職員は服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに、おしぼりたたみ、洗濯物たたみ、お茶を入れる等の役割を持っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は買い物、散歩に出かけております。	天気の良い日には散歩をしたり買い物に出かけたりします。草花を摘んだり、近隣の家の庭を眺め、声を掛けられたり地域との交流があります。家族の協力を得ながら歩行困難の人を含めて全員で旅行したこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が購入したい品があれば、一緒に出かけ自分で支払いをします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	バス旅行に出かけた後等、家族へ手紙を書いて頂いています。年賀状等も書かれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、草花等により季節感や、大きい絵や折り紙の作品等で季節感を出しております。	日当たりのよいリビングを中心に居間、トイレ、風呂が配置されて居心地のいい空間になっています。壁には利用者が積極的に専門家並みの作品を始終飾っており雰囲気を和らげています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに出ている時間が多く、利用者同士で談笑されております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室にはテレビを置かれたり、本人が居心地良く過ごされています。	居室は畳仕様が3室あり、持ち込みは自由になっています。利用者はベッド、机、棚、ダンス等を持ち込んでいる他、絵の道具一式を持ち込んで作品を制作している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今月の行事予定や本日のメニューなどが書かれており、自分なりに楽しみを持ち生活されています。		